

亜細亜大学特別講義 2022年12月6日 感想文

経営学部経営学科2年

私は今回の講義で、大学生活中に国内だけでなく国外に目を向ける必要性を大きく感じた。講義の中で平川様からは外務省が実施している在外公館派遣員の制度や香港での留学経験をお話しして頂いた。また、木村様からは海外留学の意義をお話しして頂いた。講義の中で木村様が仰られた、学生中に国外に行き視野を広げることが大切だという言葉が心に残った。留学はただ語学を学ぶためだけに行くのではなく視野を広げることも出来るのだと気付かされた。中国語で「读万卷书，行万里路」という言葉がある。これは「一万冊の本を読んで博学多識になり、一万里の道を旅して体験を積む」という意味で、座学と共に広い世界に飛び出して様々な経験を積むことの大切さを説いた言葉である。この言葉が正に木村様が私たち学生に伝えたかったことを表していると思う。これから、この言葉を胸に学生生活と留学に励みたい。今回の講義は今後の学業の励みになる素晴らしいものだった。

引用:NHK ゴガクル <https://gogakuru.com/chinese/phrase/101024>

経済学科2年

私は、来年の春に台湾へ留学行くのですが、今回の講義を聞いて、自分の中で吸収するものがありました。それは、海外留学の意義です。海外留学をすることにより、語学力向上だけでなく、海外での人的ネットワークが広がることや、就職活動でアピールすることができるのは、海外留学の意義であり、大きなメリットであると思われる。海外との文化摩擦というのは、必然的に起こりうる可能性がある。それに対して、違和感などを感じても、それを受け入れることが必要だと思われる。今回聞いた講義を今後の留学で、意識しながら行動したいと思われる。

国際関係学科2年

来年の2月中旬から台湾に留学に行くことが決定しているので、今講義は非常に有意義な時間となりました。海外留学をする意義としてたくさん挙げられていましたが、特に私が注目したのは、異文化への理解、日本を外から見て、日本の良い所・悪い所を実感する、日本で学ぶよりも語学力が向上するという点です。今まで海外に行った経験がないので、日本ではない国での様々な経験を通して、学びを深めたいと思っています。留学ができるという貴重な機会を無駄にしないよう、より意識を高く持って留学に臨みたいと思いました。今回の講義を通してより一層目的を持って留学をすることの大切さを改めて実感しました。ありがとうございました。

国際関係学科 2 年

平川智雄さん

外務省にお勤めになっていたということで、研修制度についての話にとっても興味を持った。海外に研修をすることで語学力向上や異文化理解を経験することができる。また、ここで友達を作ることができることに魅力を感じた。

木村正文さん

留学前にこの講義を聞いてよかったと感じる。語学力の向上と人的ネットワークの広がり、就職活動のアピールや自信や度胸を身につけることができることは留学に行く醍醐味ではあるのですが、自分の趣味が広がったり、新しい自分を見つけることができることはとても興味が沸いた。とても驚いたことは米国における日本人留学生の割合がとても少なく、韓国にも抜かされてしまっていることだ。しかし実際に使う機会が少ないからか日本人は英語が話すことができない人があまりにも多すぎることを常日頃から実感している。また、日本人と中国人の性格の違いもとても面白かった。創業ブームなのも中国だからこそであったり、日本人は性善説で中国人は性悪説ということは面白かった。こんなにも日本人と中国人は性格が異なることに面白みがあり、留学に行った時にその違いについてたくさん見つけていきたいと思った。

国際関係学部国際関係学科 2 年

第 10 回目の授業では、平川智雄氏と木村正文氏にお越しいただき、海外留学に関する現状と心構えについて講義していただいた。

我々夢カレ生にとって平川氏のお話しは、参考になるものが多かった。個人的には中国人に対して人前で注意するのは良くないという話が興味深かった。来年度には台湾留学を控えており、将来的にも中国人と関わっていきたいと考えているので気をつけていきたい。

木村氏には、海外留学の意義やご自身の留学経験、日本人と中国人の特徴について教えていただいた。南京大学で同室だった方と現在も家族ぐるみの付き合いがあるのを聞き、私もそのようになりたいと思った。また、時間がなくチベットのお話をあまり聞くことが出来なかったのも、いつかお話をお聞きしたいと思うと同時に自分でもチベットについて調べていこうと思った。お二人の海外留学の意義等のお話を聞くことで、留学に行きたいという気持ちが一層高くなった。実際に留学に行った際には、現地でしか学ぶことが出来ないことを学びつつ、生涯の友と呼べる友人関係を築いていきたい。

多文化学科 2 年

今回、平川さんと木村さんの講義は、以前よりも自分の留学への心構えやの知識が深まった良い講義でした。コロナ前と後で、留学先の国に大きく差が出て、自分もアジア夢カレッジに所属していて、本来ならば中国の大連に留学する予定だったのが、台湾への留学に変更になったので、自分にも実際にあったことであり、とても印象に残りました。また中国では、

大学に入るのは当たり前であり、就活生が多すぎて失業者が相次いでいる、そのため自分で起業する若者も多い、など中国の基本的な情勢もあらためて学ぶことができてよかったです。木村さんがスライドであげてくださった日本人と中国人の特徴の比較を見て、中国人と日本人は根っこの性格から真逆なんだなと感じたし、台湾に留学した際は相手国の特徴を理解することが大切だと学ぶことができました。

国際関係学部多文化コミュニケーション学科2年

平川さんの講演では、語学の学習は部分的に強化しながら学習に取り組むことが大切であるということや、目標や目的をもって物事に取り組むということをやりたいことを明確にしながら取り組むことが大切であると感じた。大学生の貴重な時間やお金を無駄にせず、効率的な学習をするためにもなると思った。お互いの文化や多様性を柔軟に受け入れることでお互い良い関係を築けると考えた。

木村さんの講演では、本を読んで様々な知識を身につけたり、旅をして実際に外に出て学習したり、積極的に声をかけて人脈を広げたりなど、大学生は様々なことにチャレンジできる最高の期間だと思った。留学は自分自身の力になることはもちろん、日本を客観視でき魅力を再発見できる点も魅力だと思う。様々な経験から自分の武器を増やしていきたいと感じた。

国際関係学部多文化コミュニケーション学科2年

留学先で友達を作ることが大切。日本人は友達を作ることが苦手。自分からあまり話しかけることをしないとおっシャっていたのが印象に残った。私は、二月から台湾へ留学するため今回の講義は非常に興味深かった。確かに日本人はなんとなくのイメージでも消極的なイメージがあり、海外の方のほうが積極的で何事もおそれないようなイメージがある。このような消極的な姿勢は日本にいても意識すれば変えることはできると思うが、せっかく台湾へ留学するという貴重な経験ができるので、積極的にたくさんの人に話しかけ、言語を学ぶだけでなく新たな価値観も身につけ、今後の生活・考え方に良い影響が受けられれば良いなと思った。台湾への留学へ向けて、留学中にできるようにしたいこと、学びたいことなど日本にいるうちに考えておき、留学中は後悔することのないように、存分に学び貴重な体験をしたいと思う。またその体験を日本に変えてきてから無駄にせず、しっかり活かしていけるようにしたい。

<国際関係学部多文化コミュニケーション学科>

今回の授業の感想として、留学に大事なのは団体力ではなく、個人的な力であるということがわかりました。自分は中学2年と大学2年で留学を経験し、どちらもアメリカに行きました。もちろん日本人の友達もできて非常に充実した日々を過ごしてきましたのですが、どうしても友達などに頼ってしまいがちな部分があったかなと思います。自分で行動する力とい

うものが当時の私にとっては欠如していたのかなと自分の中で感じ、その力があれば語学的にも非常に充実したものになったかなと感じました。また、チベットの話も興味深く、今行ったら寒さで大変だろうとは思いますが、特異な文化と社会を好みで感じてみたいと思いました。

国際関係学部多文化コミュニケーション学部 4年

今回の講義を受けて、中国と日本は同じアジア大陸で近い国ではあるが、言葉だけでなく文化や人柄など全く異なると感じた。私自身、一番印象を受けたのは、日本人と中国人の性格の違いの部分だ。チームワークを意識する日本人と個人を尊重する中国人など、他にも性格の色々な部分で違いがあったのですごく面白いと思った。留学に行く上で、食や文化の違いについて勉強して準備すれば十分だと思っていたが、人間性の部分にも知っておくことができれば中国だけでなく、他の地域でも馴染みやすいのではないか。

3年

今回の特別講義では、海外留学について2人の講師からお話を聞きました。留学には多くのメリットがあり、留学により新しいものの見方、考え方もつことは将来の可能性を広げるのだと思いました。メラビアンの法則で、情報を得られる割合として視覚が多くを占めることから、人と対話する際には表情が重要であり、理解しようとする姿勢をもつことが重要であることを学びました。留学をする上ではある程度の柔軟性やこういった理解しようとする姿勢が必要不解決であると思いました。活躍する人というのは自分から行動する力を持っている人であって、今後のグローバル社会において求められていくものであり、自身もそうなりたいと思いました。

3年

今回の講義で一番心に残ったのは、「何でも見てやろう」という小田実さんの言葉でした。木村さんが言っていたように1人で行動すると自信や行動がつくというのはその通りだと感じました。私も以前1人で何かを行うことが苦手で、常に友達や両親と一緒に行動を共にしていました。しかし少し遠い高校に通うことをきっかけに外の世界をたくさん知ることができました。下校帰りにちょっと気になっていたカフェや展覧会、美術館に通うようになり、今まで関わらないような人たちと関わる機会が増えました。少しの勇気で新しい考え方や新しいものの見方を得ることができた経験は自分の中でもとても貴重だと感じています。これからもこの想いは大切にしていきたいなと改めて感じました。

3年

コロナウイルスの影響で人数の大きな変化はあるが、2019年と2020年で留学先の選択肢が多様化していること知った。また、私は亜細亜大学に通う中で、中国からの留学生が多

いことは感じていたが、それはアメリカも例外でなく圧倒的な中国人留学生の数に驚いた。留学に行くことで語学を学ぶだけでなくその国の気候変動や地形、環境、文化などさまざまな面を肌で感じることができるとわかり、自分も利用してみたいと感じた。

3年

今回の講義を聞き、何かに挑戦している人は生き息をしていると感じた。英語を苦手とする私には、留学をすることで得られるものとは何なのだろうか、時間の無駄なのではないかと思ったがメリットが多く、その上えられるものが多く感じた。日本人は全体的に留学意欲が他国に比べ少ない。それは、何があるかわからない、冒険心がないなど、日本人特有の性質からだと思う。今しかないチャンスを無駄にせず、時間は限られているため、若いうちにできることはしていきたいと考えた。

3年

大学生になってから、机上でさまざまな文化を学ぶ機会は多くあった。以前より、海外の知識が増えたと言っても良い。しかし、それは、集団を一つにとらえた場合の見方であることを最近知った。机上での学びにより、怖いというイメージを持っていても、実際はそうでもないこともよくあるらしい。そのため、実際に、自分の目で確かめながら、その土地の文化について学ぶことが、自分にとっての、留学の最大の意義だと感じた。また、新しい自分を発見できることに興味を惹かれた。日本にいと、周りの目を気にすることが多い。他人から抱かれるイメージ通りに生きなければ、と窮屈さを感じるものがしばしばある。留学を通じて、新しい自分を見つけ、自分に素直な人生を送りたいと思った。多方面から留学の意義を知ることができた良い機会であった。

3年

中国の大学のシステム・国別血液型シェアが印象的だった。98校の重点大学から4-6人部屋で4年間共同生活をする全寮制を採用しているところが日本の大学との明確な違いであり、また4000万人以上に増加した大学生、世界に100万人以上の中国人留学生といった日本では到底ありえない規模だったのが印象に残った。国別血液型シェアでは、日本人はA型の人口が一番多いのに対し、中国とアメリカではO型、インドではB型が一番多いなど、国によってそれぞれの血液型人口に偏りがあることを初めて知った

3年

特別講義を受け、海外留学への関心が高まった。今年の夏に三週間の短期留学プログラムに参加し、アメリカへ行ってきましたが中国とアメリカの大学への留学は異なる点が多いと感じた。また、大学生のうちに留学することと社会人になってから留学するのでは留学中の意識も変わってくると感じる。アメリカとでは見た目から性格までほとんど異なる人種の

ため、それらをお互いに受け入れたコミュニケーションがとれたが、中国は同じアジアであり、共通点が多いと思えば主義・思想・性格など多くの面での違いが分かり、とても興味深かった。時代は大きく変わっても留学の必要性や、学びたいという気持ちは変わらないのだと気づいた。

3年

今回の特別講義において、私は目的、目標を持って留学する事の大切さを学びました。私はもう少しで就活が本格化するため、今年度から始まった大学の留学制度に、残念ながらしばらくは参加することができないのですが、大学を休学したり、何か仕事を辞めてまで留学に行く方が実際多いということを改めて感じることができました。大きな決断をして、時間やお金を無駄にはしたくないので、もし留学をすると決めたときには、目標を自分自身の中で作っていきたいと思います。また、留学をし、一人で行動することで自信や度胸がつくということで、私も独り旅ということに興味があるので、まずは国内で独り旅を来年しようと思いました。

3年

今回の講義を聞いて、海外留学に参加するだけでどれだけ視野が広がるのかを知った。海外留学の意義として、語学力の向上や、異文化を体験するだけでなく、海外から見た日本は何か、一人で行動することで新しい自分を発見することができ、将来自分は何をしたいのか知ることができる。また、日本人の学生と外国人の学生での行動の違いが見受けられるため、外国人での良い所、例えば積極性や同じクラスに声掛けするなどを真似して将来に活かすことができる。

3年

人口大国である中国は最近急成長を遂げており、経済的にもかなり成長してきている印象があった。これからは中国が世界の中心的な国になってもおかしくないと思っていたが、実際中国がどのような国なのかはあまりわかっていなかった。そんな中で特別講義で中国に関する内容を聞いてとても良かった。また、中国の若者に関する内容も多かったためとても勉強になった。特に中国の大学生の内容で全寮制が特徴であるというのはとても驚いた。アメリカなどの大学は全寮制のイメージがあったが中国もそのようなシステムを取り入れているのは、少しアメリカを意識しているのかなとも感じた。中国人のうまく付き合う方法は、現地で長年暮らしていた方ならではの知識でとても面白かったです。

3年

私は小学校の頃シンガポールに四年間住んでいた経験がある。コロナの影響で二年間オンラインだったこともあり、大学生活の中で海外留学に行くことはできなかった。しかし、亜

細亜大学は既に来日していた留学生と交流することができるため、相互に異文化理解や語学力向上ができる良いパートナーとして現在も仲の良い留学生が何人もいます。おそらく自分が海外で生活した経験がなければこの大学を選んでいないし、留学生と積極的に関わることもなかっただろう。グローバル化が進む日本はますます留学制度を活用して世界へはばたける人材を生み出していくべきなのだろう。

3年

今回平川さんと木村さんのお話を聞いて、やはり留学に行きたい気持ちが大きくなりました。私は亜細亜大学に入学が決まったときに留学に行こうと考えていたのですが、コロナ禍でそれどころではなくなってしまい、大学の留学プランが再開することを聞いたときにすぐ動き出せず、結局この秋学期の留学への申し込みはしませんでした。行かないと決めてから少しは後悔したこともあります。今回の講義を受けてやはり在学中に行くべきだったのだと思いました。ですが中国人と上手く付き合う方法を聞いたときに、有意義なお話だとは感じつつ、聞いているだけじゃ分からない、自分で確かめてみたいとも思いました。留学はとても勇気があることで準備も大変ではありますが、何よりも経験することが大切なのだと感じました。

3年

私は大学を卒業したら、海外留学をしたいと考えている。在学中は中国語の講義を受けたが中国への留学は考えておらず、英語圏への留学を考えている。しかし、講義の最後に出てきたチベットの話がとても関心深かった。日本からのアクセスはあまり良くなく、知り合いでチベットを訪れたことのある人はいない。テレビのドキュメンタリーや授業で軽く扱われた程度でしか知らなかったが、講義を聞いてとても行ってみたいと思った。中でも、地元の人が来ている民族衣装がとても綺麗で、見てみたい。

3年

今回は特別講義ということで、外務省にお勤めしていた平川さんと伊藤忠商事にお勤めしていた木村さんお二人にご講義いただきました。まず、平川さんのお話では、当時の中国の状況や日本との関係、留学での経験などについてお話を聞くことができた。中国では面子(メンツ)が大事で公の場で怒ってはいけないことや、大連は対日感情が良い地域であることなど、なんとなくは知っていても、詳しく知らなかったことをたくさん聞いて非常に勉強になりました。また、木村さんのお話の中で、チベットを紹介する場面が最後の方にあっただかと思いますが、実は私もチベット地域にすごく興味を持っていたので、今回お話を聞いて良かったです。天空列車や苗字・お墓がないという話はとても魅力的で、自分自身の目で見てみたいという思いがより一層強くなりました。

3年

今回の講義を聞いて、海外留学に参加するだけでどれだけ視野が広がるのかを知った。海外留学の意義として、語学力の向上や、異文化を体験するだけでなく、海外から見た日本は何か、一人で行動することで新しい自分を発見することができ、将来自分は何をしたいのか知ることができる。また、日本人の学生と外国人の学生での行動の違いが見受けられるため、外国人での良い所、例えば積極性や同じクラスに声掛けするなど真似して将来に活かすことができる。

3年

留学の貴重な経験をお聞きできてよかった。日本人の留学者は世界で見ると少ないことが分かった。私は、留学したいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、難しかった。留学に不安がある、日本より安心して暮らすことができないと感じている人が多いのだと感じる。日本にいても日本人と中国人の性格や価値観の違いを感じるが、実際に留学した方から聞いて納得するものもあった。日本人は、中国人と正反対と言ってもいいほど、性格に違いがあって面白いと感じた。中国人と上手く付き合うには、どの国の人と接するのに心がけるべき、相手の文化を理解するというのを改めて感じた。チベットの景色がとても綺麗で、行ってみたいと感じた。中国には、私の知らない魅力的な場所が多くあると知った。

2年

今回の講義で「日本人と中国人の特徴」の部分が最も印象に残った。箇条書きで特徴を見てみるとかなり違う部分が多く、地理的には近いのに、こんなにも違うのかと思った。違いを認め、相手を尊重することが国籍の違う人と関わるうえで最も重要なことだと考えた。留学では様々な文化的背景を持つ学生とともに学校生活を過ごすことによって、多文化共生への意識が強くなると思った。「海外留学の意義」にある通り、「日本を外から見て、日本の良い所、悪い所を実感できる。」は特に興味深かった。そして、留学で最も重要なことは、日本に帰ってきて、どのように学びを生かすかであると感じた。

2年

海外留学について、「留学をすることでいつか自分の役に立つことになる。」といった主張が印象深いと思いました。日本でいるだけであるとインプットするばかりでアウトプットする機会が少なく、いつになっても英語で会話をするといった能力が身に付かないと思っていたので今日の講義を受けてとても刺激を受けることができました。日本で、日本語を日常的に使うように海外に留学することになればその国にそった言語で話さなければならないので、やはりその場で学ぶことが大切なのだと理解できました。また、3つの大切なこととして本を読むこと・旅に出ること・友を作ることが大切だといった点から、まずは、大学

生活で、日本人だけでなく他国の友人を作りたいと思いました。本を読み、知識を得て、いつか留学に行きたいと思いました。

2年

亜細亜大学には AUAP、AUASP を始めとした様々な留学制度がありますが、留学の目的を今回の講義を通して再確認することができました。目的を持って留学に挑まなければ「時間とお金」を無駄にするのみだという言葉があったように、留学に行くならば語学力を伸ばしたい、異文化理解に繋がりたいなど、何がしたいかを明確にすべきだと考えます。また明確な目標を持って留学に挑む人こそ、亜細亜大学が目指すグローバル人材になる人なのだと思います。

2年

私は今までも今も留学をしたいと考えていて、これまで留学に対する目的は、高い言語能力を習得すること、人生における経験、視野を広げることなどと考えていたが、今回の講義の中で海外留学の意義に関して改めて知ることができ興味深かった。

また、主な留学先についてもアメリカ合衆国が多いことは予想していたが、オーストラリアやカナダ等を差し置いて次に中国が多いことに少し驚いた。しかし、中国語のビジネス面における需要の高まりから納得がいく結果であると考えた。

また米国におけるアジア留学生の推移に関しても日本がとても低いということが分かり、他のアジア諸国との差がとても大きいことに少し驚いたが、日本は金銭的な面で行くことができない人も多くいるのではないかと考えた。

そして、日本人と中国人の特徴の違いやチベットについてなど、今まで知ることがなかったことを今回学ぶことができ、大変興味深かった。

2年

今回の講義では中国の大学生の大学に対する意識が日本とは比べものにならないなと思いました。大学も全寮制であり、海外留学に行く人数もとても多いと思いました。全寮制にすることによってより大学への意識が高まると思いました。私が大学で生活をしていても、「一部の生徒は真面目な人もいるが、やはり大半は、他のことに夢中になっている人の方が多く見られます。全寮制のメリットとして、社会性が身につくというのも意識の高さが見られるなと思いました。知らない人と4-6人で生活を4年間ともにするのは、お互いがお互いを尊重しなければならないし、協力していかなければならない。大学生活に力を注ぎながらも社会性を身につける訓練を行うところもすごいなと思いました。

2年

私は海外留学に興味があり、行きたいと思っているため、今回の特別講義は大変タメになっ

た。海外留学の意義として、語学や文化を知ったり学んだりするだけでなく、日本人留学生が年々増えていると知り、グローバル化が進んでいるなどと思った。しかし中国やインドに比べると、総人口数の違いもあると思うが、日本は海外留学生が少ないのだなどと思った。日本に来る留学生が多い点については嬉しいと思った。アメリカにおけるアジア圏の留学生として、中国の次にインドからくる人が多いことが大変意外に思い、おどろいた。中国の海外留学者数が2008年ごろから一気に増えているのは何故だろうと疑問に思った。

2年

今回の講義を受けて、今までよりもさらに留学をすることの意義を改めて感じる事ができた。留学先はどこの方がいいのかや、中国、アメリカなど他の国の留学先なども知ることができて興味深かった。また、日本人と中国人の特徴を比べたものだったり、中国人とうまく付き合う方法も学べたので勉強になった。日本人と中国人の精神がほとんど真反対で似ている部分がほとんど無かったので驚いたし、国民性の違いも相当あるのだろうなど思った。さらに、チベットがどういったところなのかや、文化や人々の生活を知ることができて面白かった。

2年

日本人と中国人の特徴の比較というのが特に印象に残っている。私がブラジルに行った時、同じマンションの住人に会うと必ず、中国人？と聞かれた。次に韓国人、最後に日本人という順番だ。それは、中国人に他の国の人があると怒られるからだそうだ。この特徴では二つの国の違いがよくわかり面白かった。後に比較された血液型の人口についても関係があるのか気になった。中国の大学生活については、日本と大きく違うと思われる、全寮制がほとんどという点が興味深いと思った。大学生でもある程度制限された状態であるのだと感じた。留学について、私はそもそもの行かないつもりだ、世界を見つめるうえで、視野が広がる行為の一つだと思うので良さそうだった。

多文化コミュニケーション学科2年

特別講義を受けてみて、留学に行くことの意義を知ることができた。語学力の向上だけでなく、留学に行くことによって度胸がつき自信がついたり新しい自分が発見できたりするということを知った。また、中国の大学生は全寮制ということ知って驚いた。4~6人部屋で4年間共同生活をし、家族以外の他人への信頼を得ることができると教わったが、一人になりたい時や同じ部屋の人とぶつかった時どのようにしているのか気になった。中国は人口がとても多い国で毎年1000万人近い人たちが卒業していて就職難が続いているということも知った。就職難を解決するためにどんな対策がされているのか気になった。

2年

今回講義で、「海外留学に関する現状と心構え」を聞いて、大事だと感じたことは異文化理解を受け入れることである。外務省の平川さんや木村さんのお話を聞いて、他国の文化はそれぞれであるし日本と比べてみて、不思議に思ったり変だと思ってもまずは受け入れることが大事である事に気づいた。また海外の人と話す際に大事なのは、視覚、聴覚を通して伝えることであると感じた。お話の中で聴覚 38%、視覚 55%が話をする際に影響を与えるときいて驚いた。日本人は全体的に他国と比べて消極的と言われていたり感情表現が薄いので、海外の人には伝わりにくいのではないかと感じた。今回の「海外留学に関する現状と心構え」を聞いて、日本では普通のことと想着いても海外では違うことの差を感じた。

<欠席者> 多文化学科3年

特別講義資料より、「海外留学の意義」で挙げられていた中でも留学は就活などにおいて意味が無い私自身実際にと言われたりしたことがあるが人的ネットワークが広がるという点と日本国外から日本を見つめることで日本の短所長所が分かるという点が真の留学の意義であると考えた。また、日本人と中国人の特徴で日本人が縁故を表に出さないのに対し、中国人は地縁、血縁、学閥などの人脈を利用する違いが印象的だった。確かに日本はコネ入社といって縁故採用などをバカにしている傾向があるため中国では就活などでどのように縁故が利用されているのか気になった。